

D. ファストファッションと労働の関係 ～値段でモノを決めるの?～

消費者問題講義受講生グループ D

工藤風紗・佐藤朱莉・立花さくら・長濱 鮎

成田果歩・矢幅未来・吉田理緒菜

1. ファストファッションとは

本報告では、消費者市民社会の形成のための社会的課題の一つとして、ファストファッションと労働環境を取り上げる。

ここ数年で、「ファストファッション」という言葉をよく聞くようになった。この言葉の意味や背景について知っている人は、一体どのくらいいるのだろうか。今では当たり前になった「ファストファッション」であるからこそ、それを可能にしている裏側を知り、自分の消費行動について考え直す必要があるのではないだろうか。そこで、まずファストファッションがどのようなものかを確認し、その背景に何があるのか、企業・消費者にはそれぞれ何ができるのかを考えていきたい。

まず、ファストファッションの定義について確認する。ファストファッションとは、「流行を採り入れつつ低価格に抑えた衣料品を、大量生産し、短いサイクルで販売するブランドやその業態のこと」を指す。早くて安い「ファストフード」になぞらえてできた造語だ。世界的不況の下、ファッション業界でも世界的規模で大手グローバルチェーンが寡占し、売上を伸ばしている。日本のブランドとしては、ユニクロ、G.U.、しまむらが、海外ブランドとしては、GAP（アメリカ）、フォーエバー 21（アメリカ）、H&M（スウェーデン）、ZARA（スペイン）などが代表的である。安い価格で、大量に、短い周期で商品を売るためには、より低価格で原材料を仕入れる必要がある。そのような状況になったときに、企業は一体誰に目を向けるのだろうか。

2. 発展途上国の労働環境

企業が目を向ける先にいるのは、やはり日本よりも低賃金で長時間労働をさせることのできる発展途上国だろう。その中でも、より低賃金で労働させることができる女性や児童が対象になる。とくにコットン生産地の児童労働は過酷なものである。今回はインドを例にとり上げる。インドでは約 40 万人の子どもたちが働いており、その 7～8 割は女子である。綿花には土壌や地下水を汚染するほどの有害な農薬が使われている。そのような環境の下で、子どもたちは学校に通うこともできず大人よりも低い賃金で、家族のために働いているのである。学校に行きたくても行けない、農薬を大量に吸ってしまい、体調が回復しないなど、子どもたちはさまざまな問題を抱えている。多くの子どもたちの健康や大切な時間を犠牲に、低価格の衣料品が私たちに提供されているのだ。

私たちには「洋服＝低価格」が常識として日常に染みついてしまっているのです、こういった背景が存在するからといって、今すぐにファストファッションの購入を止めろというのは無理がある。しかし、衣料品の扱いを変えることはできるのではないだろうか。洋服の低価格化が進むにつれて、洋服は「着ることが困難になったら捨てるもの」から、「着なくなったら捨てるもの」へと変化した。「趣味じゃなくなったから」、「流行遅れだから」などといった理由で捨ててしまった経験は誰にでもあるだろう。しかし、洋服は捨てることしかできないのだろうか。流行に敏感な大学生だからこそできることはないのだろうか。

3. 周囲の取り組み

洋服の二次活用の方法として、古着としての提供がある。現在、街でリサイクルショップや古着屋を目にする機会は増えてきた。また、最近では古着が流行ファッションとなり、再注目されるように感じる。しかし、ブランドものの洋服しか買い取らない店舗も存在し、洋服を引き取ってもらえず捨ててしまうこともあるだろう。だが、古着の回収を行っているのは企業だけではない。その一つとして、弘前市の取り組みが挙げられる。弘前市では、市内に「弘前市衣類回収 BOX」を設置し、市民の着なくなった洋服やシーツ、タオルなどを回収している。回収 BOX の設置場所は 10 ヶ所で、窓口回収も行っている。主な設置場所として、マックスバリュ安原店、ヒロロ 3 階のヒロロスクエアがある。また、弘前大学のキャンパス内では、ボランティアサークルが学生会館 2 階に回収 BOX を設置しており、この取り組みに協賛している。これらの施設を利用する人は、一度は回収 BOX を目にしたことがあるだろう。回収された衣類は再資源化業者に引き渡され、着用可能なものと着用不可能のものに分類される。前者は古着として再度市場に流れ、後者は工業用雑巾として捨てることなく再利用される。まだ着用が可能な衣類が私的な感情で処分され続けているのは、有限なエネルギーの浪費につながるとともに、大量の廃棄物となって環境汚染の原因にもなってしまう。たった一手間で、自分が捨てようとしている洋服が新しい持ち主のところへ提供され、環境への配慮にもつながるのであれば、こうした取り組みに参加する価値があるのではないだろうか。

以上、消費者市民社会の形成のための社会的課題の一つとして、ファストファッションと発展途上国の労働環境について取り上げた。この社会的課題を解決するために、まずは洋服に対する消費者の意識を変え、消費者が資源再利用の取り組みに参加していく必要があると考えられる。

(矢幅未来)

ファストファッション と 労働の関係

～値段でモノを決めるの？～

16H2161 吉田理緒菜 16H2056 佐藤朱莉
16H2035 工藤麻紗 16H2146 矢嶋未来
16H2086 立花さくら 16H2105 長瀬鮎
16H2107 成田果歩

劣悪な労働環境



ファストファッションとは

定義：流行を採り入れつつ低価格に抑えた衣料品を、大量生産し、短いサイクルで販売するブランドやその業態のこと。世界的不況の下、ファッション業界でも世界的規模で大手グローバルチェーンが寡占し、売り上げを伸ばしている。

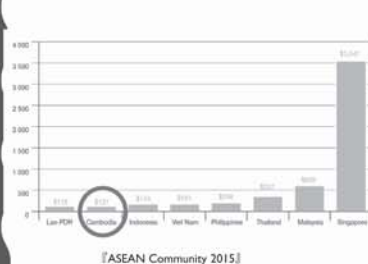
主なブランド：日本のブランドとしては、ユニクロ、g.u.、しまむら、海外ブランドではGAP(米国)、フォーエバー21(米国)、H&M(スウェーデン)、ZARA(スペイン)などが代表的。

引用；コトバンク <https://kotobank.jp/word/>

SDG S との関係性



賃金の比較



2012年における
月額労働賃金比較

カンボジアでは週の食費が平均約9ドル。1日に換算すると1.3ドルというごくわずかなお金で生活している。

ファストファッション～大学生あるある～

こんなこと、ありませんか？

「一年着たら飽きちゃった...まだ着られるけど安かったから捨てちゃおう！」

「この服、流行ってたから買ったけどもう着ないなあ...」

安い故に服を大切に扱うことを忘れがちになっていませんか？

↓
SDGs目標12「持続可能な消費と生産」の妨げ



周囲の取り組み

弘前市...「弘前市衣類回収BOX」

→回収された衣類は再資源化業者へ。

主な設置場所...マックスバリュ、ヒロロスクエア、大学会館

古着屋の取り組み...ドンドンダウンの事例

→売れ残った服、商品にできない服をマレーシアの提携会社へ

↓ どちらも... ↓

海外で古着として流通 or 工業用雑巾へ

出典:www.city.hirosaki.aomori.jp/kuradhi/gomi/irui-recycle.html

Dondonblog.com/pressblog/ 【press-blog】ドンドンダウンの古着の行方/

まとめ

現状を知る

❖倫理的という新しい観点で服を選ぶ

モノを大切にする

❖ファッションもリサイクル

